

交通事故AI分析の概要

- 事故多発地点への対策や交通安全啓発活動などにより事故が減少傾向
- 第11次浜松市交通安全計画の目標である「令和7年度末までに年間人身交通事故件数2,500件以下」の達成に向け、さらなる事故対策の実施が必要

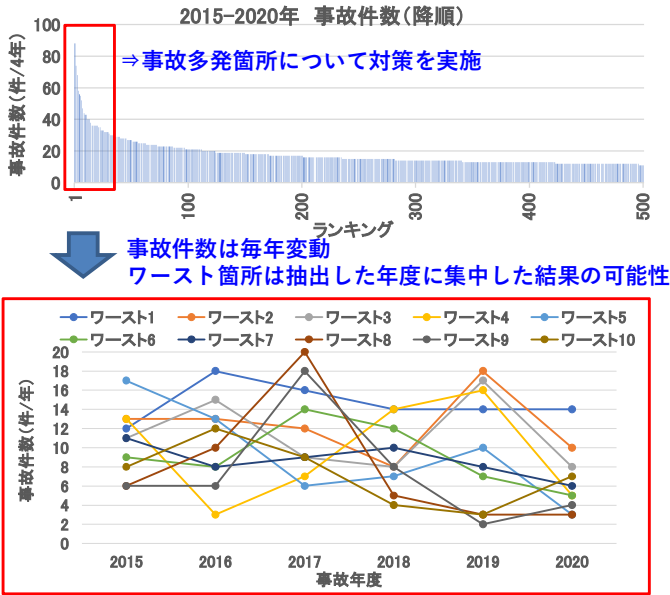
⇒ AI分析により、以下2つの視点からアプローチすることで、事故削減量を加速化させる

- ①潜在的な事故の危険度の高い箇所を選定
⇒より危険度の高い箇所から効果的な対策を検討
- ②事故要因を明確化
⇒事故の削減効果が期待できる箇所と対策の選定

浜松市における年間人身交通事故の推移



◆従来の要対策箇所の抽出手法



◆従来の要因分析手法

⇒箇所毎に事故要因を分析し、対策を検討



<モデル1：事故危険度予測モデル>

- AI分析により、事故が多発する特徴を学習



- 事故の危険度の高い箇所を予測
⇒事故多発箇所のみでなく、潜在的に事故危険性の高い箇所も抽出



⇒これにより、危険性の高い箇所から効果的な対策を実施できる

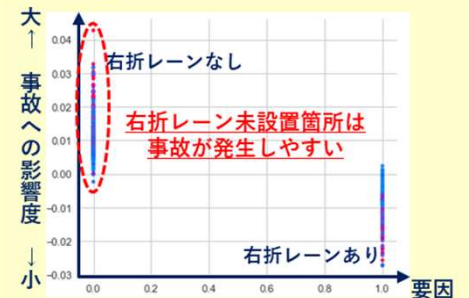
- 交通事故危険度の可視化
⇒有効な情報提供による市民の行動変容を促進できる

<モデル2：対策検討モデル>

- AI分析により、交差点の構造などの事故の要因を学習



- AI機能を利用し、事故の影響度の高い事故要因や対策効果が発現する条件を特定



- ⇒明らかとなっている事故要因への対策の提案
⇒効果が発現する箇所への対策の提案

⇒これにより、効果的な対策実施とともに、対策実施のスピードアップが図られる